

魚道モニタリング調査のご提案

生態系に配慮した河川管理が行われるようになった今日、砂防堰堤や取水堰等の河川横断構造物を作る際に、生息魚種の上下流移動を確保するため、魚道を設置することが一般的になりました。

しかし、せっかく設置された魚道も、実際に利用されていないければ、機能を十分に果たしているとはいえません。魚道の機能を十分に活かすためには、魚道の機能を評価し、場合によっては改良などを加えていくことが重要だと考えます。

当社では、魚道の機能評価のために、以下の魚道モニタリング調査をご提案しています。

調査準備・事前調査

- 魚道設計図面の確認、現地確認
- 対象河川や魚道に関する文献・資料調査
- 必要に応じてヒアリング（有識者、漁業関係者等）



現地調査

- ◆魚道現況調査（魚道の現状を把握します。）
 - 魚道の簡易測量、写真撮影等
 - 魚道周辺の流況（流量・流速等）、水質



- ◆遡上状況調査（魚道の利用状況を確認します。）

目視調査、トラップ調査、遡上実験、潜水観察等、様々な調査方法があります。現地や河川の状況に合わせて、最適な調査方法をご提案します。



目視調査

目視で魚類の遡上状況を確認する。



トラップ調査

魚道出口にトラップを仕掛け、回収することにより遡上数を調査する。



遡上実験

魚道下流に魚を放流し、遡上状況を確認する。標識をつけた魚を放流するが多い。



潜水調査

魚道内・周辺を潜水観察し、魚類の個体数、利用状況を確認する。

考察・評価、ご提案

調査結果より、魚道の現在の状況について評価します。また、魚道の機能が十分に活用されていないと考えられた場合には、簡易的な改修の方法等をご提案します。

～魚道調査についてのお問い合わせは下記まで～

EAC 株式会社環境アセスメントセンター

- ▶ 本社 〒420-0047 静岡県静岡市葵区清閑町 13-12 TEL054-255-3650(企画部)
- ▶ 北信越支社 〒399-8204 長野県安曇野市豊科高家 2287-28 TEL0263-87-2504(企画部)
- ▶ 事務所 名古屋・豊橋・岐阜・恵那・高山・三重・飯田・伊那・富山・浜松・伊豆事務所